

山陰ギターコンクール祝 40 周年！



山陰ギター協会だより vol.3

目次

* 会長挨拶	3
* 山陰ギターコンクールのあゆみ	4
* これまでの入賞者	5
* 山陰ギターコンクール 40 周年祝辞	6
・優勝者代表より	7
・参加者のみなさまより	10
・審査員代表より	12
・協賛者代表より	13
・協会正会員代表より	14





プロフィール/

故大西慶邦、E・ビテッティ、
故 J.L.・ゴンサレスに師事。
スペインツアーコンサート等
国内外コンサート多数、2020
年 50 周年記念第 23 回リサ
イタル開催。

日本ギター協会理事、(公社)
日本ギター連盟正会員、2020
年、サンティステバン国際ギ
ターコンクール (スペイン)
審査員を務める。鳥取県大山
町所子出身。

門脇康一

1980 年にスペイン留学を終え、多くの方に支えられ 5 回目のリサイタルを開催しました。私の住んでいる所はアルハンブラ宮殿のあるスペインのグラナダに似ています。大山でスキーをした後、日本海をのぞみ、海で泳げる。ここを日本のグラナダと思うことにしました。夢を膨らませ、この地をギター王国にしようと決意を新たにしました。

さて、陸の孤島と揶揄されている鳥取で、さてどうするか。恩師故大西慶邦先生に相談しました。先生は即、「コンクールをしなさい。」とアドバイスされ、今日の山陰ギターコンクールが誕生したのです。第 1 回は 1983 年鳥取県米子市公会堂で開催し、その後隔年で実施し 2003 年より鳥取・島根で交互に毎年開催し現在に至っています。2020 年には石破茂氏(衆議院議員)に名誉理事に就いて頂き、これまでの実行委員会から山陰ギター協会に改称しました。お陰さまで全国各地から多くの参加者に支えられたコンクールに成長しました。ここに関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。コンクールを始めてどんなことが変わったかと言いますと、私自身が変わり大切な事に気づきました。一つのイベントには多くの方のご支援、アドバイスは欠かせません。皆さん、依頼をすると応えて下さいます。その感謝の気持ちをその人達だけに伝えるだけで終わってはいけない、違った広い方向に目を向けるべきだと気づいたのです。その後生まれたのが少数派ジャンルのアーティストに一条の光をあてる主旨のイベリアコンサートでした(今年で 67 回)。そして大イベントだった数度のギターチャリティーコンサートも開催できました。

今思う事はやはり継続こそ最大の力になるという事です。当コンクールも今世界の潮流となった元ノーベル賞候補で心の経済学者と言われる故宇沢弘文氏(鳥取県米子市出身)の理念、*社会的共通資本(SDGs)の思想が息づいています。今後も皆さんのギターの情熱に応えるべく頑張ります。そして支え合いながら前進致しましょう。

*社会的共通資本とは

一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、豊かな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味する。

山陰ギターコンクールのあゆみ

1982 年 山陰ギターコンクール実行委員会を発足

1983 年 5月3日「第1回山陰ギターコンクール」を米子市公会堂にて開催、
参加者 10名でスタート。以後隔年で開催。(ゲスト山崎繁氏)

1987 年 第3回より重奏、一般の部で開催 会場 大山町中央公民館

1989 年 第4回より学生の部、重奏の部、一般部門で開催。

1993 年 第6回よりシニア部門を創設し 4部門となる。会場を米子市文化ホールに移行。

2001 年 第10回記念大会開催。(20周年記念 ゲスト池田慎司氏)

2003 年 第11回より鳥取県米子市、島根県松江市(会場、松江市プラバホール)で毎年交互に開催

2006 年 第14回より一般部門にプロフェッショナル部門を創設し、5部門となる。

2010 年 第18回より一般部門をさらに中級、上級部門とし、6部門となる。

2012 年 第20回よりアンサンブル部門を廃止、5部門となる。(20回記念大会、ゲスト福田進一氏)

2019 年、第27回より 2日間開催へ。シルバー部門を創設し 6部門となる。

2020 年、山陰ギターコンクール実行委員会から山陰ギター協会へ名称を変更、名誉顧問に石破茂氏
(衆議院議員)を迎える。

2022 年、マリアエステル・グスマン氏を迎え「山陰ギターフェスティバル」開催。

2023 年、40周年を迎える。

歴代会長

第一代 中山明慶 第1回~第3回

第二代 坂田俊之 第4回~第7回

第三代 入江史雄 第8回~第14回

第四代 門脇康一 第15回~現在



第2回コンクール



第4回コンクール重奏部門

これまでの入賞者

		第一位	第二位	第三位
第1回	1983年5月3日	佐々木章友	木村秀樹	岩越彰
第2回	1985年5月19日	勝山時男	山谷博人	木村秀樹
第3回	1987年5月10日	木村秀樹	伊藤明弘	山谷博人
第4回	1989年5月14日	松岡滋	大谷定広	徳武正和
第5回	1991年5月12日	細川卓也	伊藤明弘	安部登代子
第6回	1993年5月3日	篠村聡威	藤井梓	岡山友樹
第7回	1995年5月4日	大萩康司	(該当なし)	甲田純生、荒井稔
第8回	1997年5月4日	山崎昭典	荒井稔	岡山友樹
第9回	1999年5月2日	竹之内美穂	(該当なし)	佐藤洋美、仲里靖雄
第10回	2001年5月3日	(該当なし)	上垣内寿光	植野滋
第11回	2003年5月3日	加治川剛	山崎由規	三好亮範
第12回	2004年5月2日	マニユエル・カブレラ	井上成人	濱田貴志
第13回	2005年5月1日	(該当なし)	三好裕亮	斎藤泰士、竹形将之
第14回	2006年5月3日	Joseph Perez Mirandilla	井筒将太	猪居謙
第15回	2007年5月3日	佐久間優	西田武史	遠藤峻
第16回	2008年5月4日	(該当なし)	西田武史	松江亜希子
第17回	2009年5月3日	西田武史	高須大地、山田唯雄	(該当なし)
第18回	2010年5月3日	高須大地	閑喜弦介	舩田隆志、堀内裕行
第19回	2011年5月1日	(該当なし)	井谷光明	閑喜弦介、荒木善彦
第20回	2012年5月4日	閑喜弦介	山口莉奈	木村英樹
第21回	2013年5月4日	山田唯雄	大西洋二郎	堀内裕行
第22回	2014年5月4日	山口莉奈	渡邊茜	堀内裕行
第23回	2015年5月4日	渡邊茜	横村福音	奥垣内健
第24回	2016年5月3日	Alexander Galaganov	横村福音	松島健二
第25回	2017年5月4日	横村福音	松島健二	宮川春菜
第26回	2018年5月4日	(該当なし)	松島健二	宮川春菜
第27回	2019年5月3、4日	宮川春菜	(該当なし)	原昌弘、三合勇矢
第28回	(新型コロナウイルスのため中止)			
第29回	2021年8月29日	佐々木巖	三合勇矢	石原由理
第30回	2022年5月3、4日	石原由理	松島淳	三合勇矢

山陰ギターコンクール開催 40 周年 祝辞



米子市長 伊木隆司

山陰ギターコンクールの開催が 40 周年を迎えられ、ここに記念誌を発刊されますことを心よりお慶び申し上げます。

1983 年に米子市公会堂で第 1 回のコンクールが開催されて以降、ジュニアからプロまで世代を超えたギタリストが一堂に会する全国有数のコンクールへと発展されたのも、ひとえに貴協会及び関係各位のご尽力の賜物と深く敬意を表します。

クラシックギターの演奏は、柔らかく優しい音色はもちろんのこと、叩いたり弦を擦ったり、曲に合わせた豊かな表現が可能で、聴き手がまるで物語の世界に身を置いているかのような感覚を覚えるほど魅力に溢れています。

是非、これからもコンクールを開催いただき、出場されるギタリストの奏でる演奏が、地域における音楽文化のさらなる醸成につながりますことを大いに期待いたします。

結びに、本コンクールの益々のご発展と、出場者の皆様のご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

福山敦子（ギタリスト・日本ギター協会会長）

40 周年おめでとうございます。毎年全国から着実に増えているのはコンクールという厳しい場でありながらも、温かいおもてなしを心がけておられるスタッフの方々のお蔭だと思います。今やこの世の中は何につけスピードが求められる非常に慌ただしくて一日もあっという間に流れていきます。そんな中、美しい大自然に囲まれた地の素晴らしいホールで生の演奏が聴ける！弾ける！これほど贅沢なことはなく、貴重なことはありません。

今後の益々のご発展を心より願っております。



第 20 回記念大会ゲスト、福田進一氏



左より門脇康一、入江史雄、長野文憲



松岡滋（大阪府出身・第4回一般部門優勝）

山陰ギターコンクール 40 周年おめでとうございます。私が 1 位を頂いたのが第 4 回、大山山麓の大山町公民館での開催でした。大自然に囲まれた大変のどかな場所に、現在も大活躍されている精鋭達が集う非常にハイレベルなコンクールに心躍ったことを記憶しています。ちょうど自分が「これからプロとして活動していこう」と心に決めた頃に参加し、頂くことが出来た 1 位。キャリアのスタートとして一生心に残る出来事になりました。その後も多くの逸材を輩出している山陰ギターコンクール。今後の益々のご発展を心より願っております。

プロフィール/

フランス・ジョワンヴィル市立音楽院にてロベルト・アウセル氏に師事。帰国後各地で演奏活動を行なっている。2019 年リリースの CD「そよ風の中、自転車に乗って」がレコード芸術誌で『準特選』。作曲家の顔も持ちギター四重奏のための「風のサンバ」「陽の光のロンド」は現代ギター社から出版され広く演奏されている。



細川卓也（鳥取県出身・第5回一般部門優勝）

第 5 回(1991 年)に私は優勝することが出来、現在の活動へとつながっている。もし結果が違っていても今でもギターを弾いているとは思いますが、優勝したことは私の履歴の中で大きな意味を持っている。門脇康一先生の情熱で始まったこのコンクールで最も恩恵を受けているのは、私だと思っている。私が優勝した以降に鳥取・島根の出身者から優勝者は出ていない。今は日本全国や外国からの参加者もありレベルがかなり高くなっているが、『山陰』からの優勝者も出てほしい。

プロフィール/

門脇康一、柴田 健、佐野健二の各氏に師事。

LiGiTa にて D.ラッセル、L.ブローウェルのクラスを受講しファイナルコンサートに出演。(公社)日本ギター連盟正会員。日本ギター協会理事。尼崎マンドリン・ギター協会会長。鳥取県若桜町出身、尼崎市在住。



大萩康司（宮崎県出身・第7回一般部門優勝）

この度は山陰ギターコンクール発足 40 周年、おめでとうございます。40 年という
と国内でも歴史あるコンクールの一つと言えます。私自身、20 数年前に山陰ギター
コンクールを受けて賞をいただきましたご縁もあります。実は当時部活(ハンドボー
ルのゴールキーパー)をやっていて、試合を取るかコンクールを取るかで、真剣に悩
んだことを覚えております。何はともあれ、これからも山陰コンクールが若手の皆様
や、ギター愛好家の皆様のスキルアップの場となり、同時に高い目標を持った同志の
集まりとなり、未来に発展されることを心より願っております。

プロフィール/

フランスのパリ・エコール・ノルマル音楽院、パリ国立高等音楽院、イタリアのキジ
アーナ音楽院で学ぶ。これまでに萩原博、中野義久(フォレストヒル・ミュージック
アカデミー)、福田進一、O.シャッサン、O.ギリアに師事。1998 年ハバナ国際ギター・
コンクールを受け、第 2 位、及び審査員特別賞受賞。2000 年ビクターエンタテイ
ンメントより専属アーティストとして CD デビュー。2000 年デビュー以来 20 枚
以上の CD、2 枚の DVD をリリース。第 6 回ホテルオークラ音楽賞、第 18 回出
光音楽賞受賞。大阪音楽大学、及び洗足学園音楽大学客員教授。



山田 唯雄（大阪府出身・第21回プロフェッショナル部門優勝）

この度は、発足 40 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。小学生から
高校の頃まで、よく一年の成果を試す場として参加させて頂いておりました。5 月
初旬の爽やかな気候の中、自然あふれる鳥取/島根に訪れるのは毎年の楽しみでもあ
りました。演奏を評価して頂く事に 加え、先生方や志を同じくする仲間と交流の機
会を持てる貴重な場でもあり、今もその繋がりは 貴重な財産です。多くの学びや出
会いを頂いた事に感謝致しますと共に、山陰地方のギター文化、並びに貴コンクール
の一層のご発展を祈念しております。

プロフィール/

山田直樹、藤井敬吾、江間常夫、荘村清志、高田元太郎、A. ピエッリ、R. ガレン
各氏に 師事。ニュルティンゲン国際 第 1 位、ウィーン国際 第 2 位、アンドレス・
セゴヴィア国際 第 3 位、アントニー国際 第 2 位、イザローン国際 第 2 位ほか、国
内外多数の国際コンクールにて入賞。ワイマール・リスト音楽大学に在籍中。



山口莉奈（兵庫県出身・第22回プロフェッショナル部門優勝）

山陰ギターコンクール 40 周年おめでとうございます。山陰ギターコンクールは私が中学生の時に初めて 1 位をいただいたコンクールであり、「もっと上手になりたい」とギターを続ける力を与えて下さったコンクールです。私は小学生の頃から毎年山陰ギターコンクールに挑戦していました。プロフェッショナル部門で 1 位をいただいたことで自信がつき、更に飛躍できたと感じます。山陰ギターコンクールで貴重な経験をたくさんさせていただいたからこそ、今の私があります。そして協会の皆さまに温かく接していただいたこと、今でもとても感謝しております。今後も益々のご発展をお祈りしております。

プロフィール/

8 歳よりギターを始める。濱田圭、藤井敬吾、福田進一各氏に師事。大阪音楽大学クラシックギター専攻に特待生入学。同大学卒業時、優秀賞受賞。第 22 回山陰ギターコンクールプロフェッショナル部門優勝。第 42 回ギター音楽大賞、大賞部門優勝、大阪府知事賞受賞。第 26 回名古屋ギターコンクール優勝。第 50 回クラシックギターコンクール優勝。第 32 回 JGA ギター音楽祭にてベストパフォーマンス賞 受賞。



宮川春菜（奈良県出身 第 27 回プロフェッショナル部門優勝）

40 周年おめでとうございます!山陰ギターコンクールには小学 5 年生から高校 2 年生まで毎年挑戦させて頂き、素晴らしい出場者の皆様との出会いや刺激をたくさん頂きました。自然豊かな山陰に訪れられることも子供心にひとつの楽しみでした。今後も高みを目指して挑戦される皆様に応援しております! そして多くの方がこの山陰ギターコンクールを通してギターを好きになって頂き、ギター界がより豊かになることを願っています。

プロフィール/

小学 2 年生より牧瀬豊氏に師事。第 27 回山陰ギターコンクールプロフェッショナル部門優勝。第 42 回ジュニアギターコンクール高校生の部優勝及び最優秀賞。第 1 回イブラ・グランド・アワード・ジャパン・コンクールにて AYAKO WATANABE PRIZE 受賞。Amazon よりオンラインコンサートを収録した DVD「Chaconne」、「森に夢みる」を発売中。その他、オンラインも含め多数コンサートにも出演。

*参加者の皆さまより

青砥生夫（島根）

私と山陰ギターコンクールとの出会いは22回からだと思いえています。60歳で京都から島根にUターンして門脇先生と出会い今に至ります。私は元々練習はあまりしませんでした。コンクールという目標に出会い、練習から妥協しない本番に向けての練習、日々の練習に対しての考えが変わりました。目標があるというのは成長する原動力になると実感しています。山陰ギターコンクールのスタッフの皆様、準備から実施までご苦労様です。40年もの功労に感謝いたします。

池内直樹（鳥取）

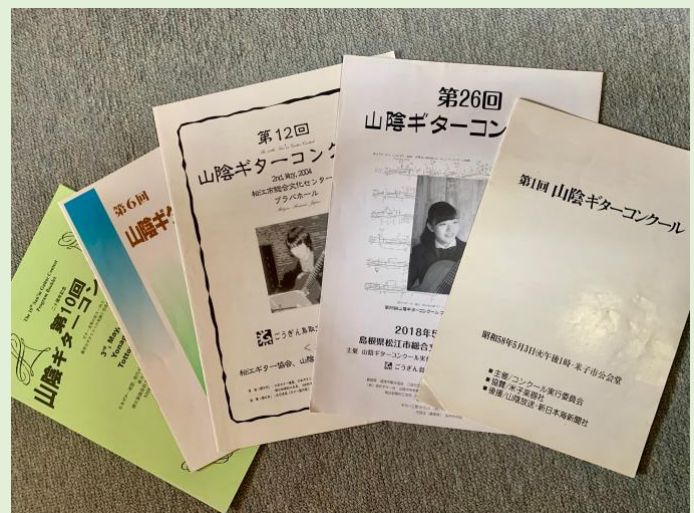
山陰におけるコンクールがもう40年たったとは・・・私は青年の頃、第1回から出場し、ステージで光輝くことを夢見て仕事の合間をみて毎日練習してきました。コンクールが40年目というより自分がそれなりに努力してきた40年を想うと自分を褒めてみたい気持ちになります。私のギターの大黒柱だった山陰ギターコンクールの発展を切に祈っています。

高橋通康（大阪）

40周年を迎えられ心からお祝い申し上げます。私が初参加したのは2003年第11回のシニア部門でした。当時舞台課題曲があり本当に厳しいコンクールでしたが打ち上げでの交流が楽しく、その後毎年参加させていただいています。2006年に課題曲がなくなり初入賞で1位を頂き、副賞のスイカのお陰で家族からこのコンクールだけは応援してもらえるようになりました。40周年本当におめでとうございます。



第12回コンクール



これまでのコンクールプログラム

土屋和彦（兵庫）

「山陰ギターコンクールとともに」

40周年誠にありがとうございます。門脇康一先生と協会関係者の皆様の長年にわたる努力と功績に敬意を表し、お祝い申し上げます。私は2001年にギターを再開し、2004年5月に初めてコンクールに参加しました。係の方の案内にとても気配りがあり安心感を覚えました。幸運なことに入賞をいただき、以来コンクール参加が自身のギター活動の大きな目標となりました。そのような機会を与えていただける協会の皆様に感謝いたします。今後も将来を嘱望される若いギタリストや、ギターライフを楽しみに過ごす私達シニアのためにも、山陰ギター協会の益々のご発展を願っております。

松島多見（大阪・高槻キッズギター教室）

40周年おめでとうございます。第16回以降、ほぼ毎回子ども達や自分自身が参加し、山陰の豊かな魅力にふれながら、音楽という全世界共通語を学ぶ、最高の時を心に刻んで参りました。クラシックギターが人となりを育てながら心の音色を奏でる素晴らしい楽器であることを、主催者の皆さまのギター愛から教えて頂きます。

今後も山陰に素敵なギターの音色が響きますように～私の第二の故郷の健やかなることをいつも願っております。

山本城央（鳥取）

40周年おめでとうございます。30数年前、初めてこのコンクールを視聴した時、出場者の皆さんの見事な演奏に大変驚いた事を覚えています。当時はこのステージで演奏できるなど夢にも思いませんでしたが、今ではギター演奏の上達の間と捉え、参加しています。このコンクールは主催者・スタッフの皆さんがとてもあたたかく接して下さるので全国から出場者が募って参加しています。良きライバルではありますが演奏の技術や心構えなど情報交換をして親睦を深めています。更なる発展を願っております。



第20回記念大会表彰式



95年、大萩康司氏

* 審査員代表より

新倉健（作曲家、鳥取大学名誉教授）

私は 1981 年に鳥取大学に赴任してからほどなく門脇康一さんと意気投合して、大山町のお宅で夜を徹して語り明かして酔いつぶれ、お宅に泊めていただいたりした。私がなぜ専門外のギターコンクールの審査員などを引き受けたのか今でもよく思い出せないが、お陰でギターの魅力が少しはわかるようになり、ギター曲も 3 曲作曲出来た。門脇さん、長い時間をかけて私を育ててくださり、ありがとう。今後ともよろしく申し上げます。

山崎 繁（ギタリスト・日本ギター協会前会長）

40 周年誠におめでとうございます。私も初期の頃にゲスト演奏をしたことがあり、故大西慶邦先生とご一緒の旅が懐かしく楽しかった思い出があります。

さて、コンクールの多くは大都市で催されることが多いのですが、山陰ギターコンクールはその土地柄も生かした特色を打ち出され盛会となっています。色々ご苦労も多々あったことと思いますが門脇康一先生をはじめ、支えて盛り上げていただいた個性ある方々には頭が下がります。

今後も大いに盛り上げるコンクールを継続されることを祈念致しております。



コンクール前夜祭

第 24 回コンクール



坂田俊之第 2 代会長

石原正（農業家）

ギター愛好家の研鑽と交流の場として「山陰ギターコンクール」が大きな功績を残されながら 40 周年を迎えられました事をお喜び致します。ギター教室で門脇先生に教えて頂いたこともあって副賞(大栄西瓜)を提供することでコンクールに関わらせて頂いています。栄えあるコンクールにご縁を頂いて光栄に思っています。

庄司清英（ギター製作家）

開催 40 周年おめでとうございます。私とコンクールとの出会いは、第 6 回に知人が出場した後の親睦会でした。門脇康一会長が是非、自宅にお出で下さいとのお誘いに甘えて、門脇さんのコンクールへの熱い思いをその日夜遅くまで語られたのに感動し、是非、私も参加させて欲しいとお願いしました。あれから早 30 年、昨日の様に鮮明に覚えています。音楽活動が都会、特に東京一極集中しがちな中、山陰にギター音楽を広める事を目的にされていましたが、2003 年からは島根県でもと毎年開催、さらに 2 日開催と全国から参加者も集まり、もうその域を超えましたが、しかし当コンクールの持ち味の家族的なフレンドリーさは変わらず、これからも益々のご発展をお祈りしています。



第 4 回入賞者

コンクール打ち上げにて



参加者とともに（妻木晩田遺跡）

入江史雄（名誉会長）

「明日の山陰ギターコンクール」

霊峰大山を望む片田舎で産声をあげた山陰ギターコンクールが早や 40 周年を迎えるとは、正に“光陰矢のごとし”だ!! 産みの親でもある現会長の門脇康一氏には 50 周年を目指して頑張ってもらいたい。困難が生じれば副会長の木村秀樹氏にバトンを渡し、将来は門脇卓人氏による恒久的コンクールの完成に共に尽力してもらいたい。終わりに今の私の心境を記したい。“老兵は死なず!! ただ見守るのみ!!”

木村秀樹（副会長）

山陰にギターコンクールが誕生して 40 年。数字をみたら大変なものだが実感はもう 40 年も経っていたのかと改めて早いと思う。年々規模も内容も充実して全国でも有数のコンクールになった。これには門脇康一先生をはじめ、多くのみなさまの努力でできたこと。一方で時代も変わってきて都会だとか地方だとかということはあまり当てはまらなくなってきた。これからの時代はその地域だからできるものをプラスしながら魅力のあるものになっていくのだと感じている。次の 50 周年に向けて気持ちを新たにスタート!

田中誠二（理事）

約 20 年前に父親の田舎である島根県に移住しましたが、クラシックギターの演奏を続けていきたいと考え門脇先生に師事しました。このコンクールには山陰で出来た友人と共に何度かトライしました。良い結果は残せなかったが、プロを目指す人からシニアの方まで様々な演奏を聴くことができ、幸せな時間を過ごせました。コンクールへの参加は早々に引退し、現在は主に審査員室で裏方としてお手伝いしています。今後ともクラシックギターの素晴らしさを広めていくために関わっていきたくと考えています。

中垣武美（理事）

私が初めて山陰ギターコンクールに出場したのは 1989 年の第 4 回でした。会場は大山町中央公民館で、スリッパをはいてステージに上がったことや、門脇先生の家で打上げしたことなど、なつかしく思い出します。その後も何度か出場しましたが、コンクールに出た経験や、コンクールでの人との出会いは、今でも大切なものになっています。

上平敦（正会員）

子供の音楽コンクールは数あれども大人のコンクールとなればそう有るものではない。まして此処は山陰。にもかかわらず 40 年もの月日を社会の変貌に寄り添い乗り越えながら滾々と今日まで続いていることはまさに感動です（巷では苦境に断念し消えていったコンクールもあるのだから）。小さな組織から始まった私たちのコンクールが今も熱意ある人々に守られ、少しずつ形を変え成長している山陰ギターコンクール。新幹線の無いこの地に全国から集うクラシックギター愛好者とそれを支える関係者の方々に感謝を表し、これからの五年先、十年先を楽しみにしたいと思います。

門脇あや子（理事・事務局）

コンクールを通して私達はなんと多くの事を学んだことでしょうか！ 始めは有志が集まり全てが手作りだった。第3回から5回までは大山町の公民館で開催し終了後の打ち上げは門脇邸だった。何十人も集まり皆が遅くまで騒いだものだ。前日には審査員も集合し前夜祭まで行っていた。その上終了後には参加者が必ず拙宅に泊まれるのだ。これはしばらく続いた。今思うとよくも実現出来たなあと思ってしまう。若さゆえのパワーでしょうか！ 懐かしい思い出が沢山ある。クラシックギターで人生が豊かになっていく！ このコンクールはまさにおもてなしで開催してきたように思う。山陰の自然豊かな空気感や食の美味しさ、素晴らしいホールでの演奏、一人一人が輝く居場所と交流があること、どれも私達に必要なことで、しかも質の良い本物であること。そんな事業として継続してきたことが今日に繋がっているのかもしれませんが。協賛・後援各社の御協力で更に充実したものになりました。その御一人御一人にこの場をかりて深く御礼申し上げます。中でも今日まで中心になって無償で奉仕頂いている正会員各位の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後も大切なことは継続せねばならないという思いを刻み、未来につなげていきたいと思います。



第8回コンクール



第9回コンクール



第24回コンクール



山陰ギター協会事務局

2023年5月4日発行

〒689-3303 鳥取県西伯郡大山町所子 175

TEL/0859 53 3571

Email/s-guitar@js7.so-net.ne.jp